

甲斐市立玉幡中学校 学校関係者評価書

令和 2 年 2 月 1 9 日（金）

（玉幡中学校）学校関係者評価委員会作成

第 2 回 学校関係者評価委員会

実施日：令和 2 年 1 月 2 9 日（金）午後 7 時～

会 場：玉幡中学校 会議室

参加者：学校関係者評価委員；小林幸雄，太田節子，望月智和，望月 守，高野有希子
学校側；校長：新海直仁，教頭：戸田徳和，教務：河西よしみ，生指：三井 久

I 学校側から提案された内容

- ・学校の全体の様子
- ・自己評価結果の説明
- ・生徒指導に関わる取組状況について

II 協議された主な内容

- ・教職員による自己評価の集計結果及び生徒・保護者アンケートの集計結果をもとに項目ごと結果分析，考察，改善策を提案し，質問，意見，アドバイスを頂いた。
- ・今日的教育課題，本校における課題について協議し，本校の実態把握及び共通理解のもと，次年度に向けての方策や今後の方向性について話し合った。

<学校関係者評価書>

I 全体評価

- ・教職員，保護者，生徒アンケートをもとに考察し，説明を行った。

II 特 徴

- ・新型コロナウイルスの感染症流行による学校の対応についての質問が出され，実際に感染者が出た場合のシミュレーションを行い対応に備えていると報告がされた。また，学校行事の変更や今後の生徒への対応については，その時の流行状況を把握して行事を慎重に検討していくことや生徒へのストレスに関しては，ひとりひとりの生徒に目を向け，しっかり寄り添い，家庭との連携を図る中で新しい生活様式を取り入れ，感染症対策に取り組んでいくことが大切であると校長より説明を行った。
- ・現状の職員の構成や若手教員の増加に伴い，教師の資質能力の向上を図っていくことの重要性が指摘された。
- ・生徒指導等に関しては，教員が一人で課題を抱え込むことのないよう，生徒指導部会や支援委員会，学年部会や職員会議等で情報共有を行い，組織的な対応に努めているとの説明がなされた。また，課題を抱える生徒に対しては，保護者との連携を密にし，複数での対応を心がけていると報告があった。また，その様子を生徒指導部会や支援委員会，職員会議等で共有し，共通理解が図れているとの報告があった。また，地域的にもひとり親家庭の数が多いため，家庭との連携を密に行い，職員も複数での対応を心がけ，外部機関とも連携を図っていくと説明がされた。
- ・SNS 問題，性行不良，不適応生徒など，家庭環境に起因する生徒指導事例が少なくない昨今，学校としても大変懸念しているところである。全ての事例に対して学校だけでは解決できないこともあるが，実際に学校に来ていない生徒が学校外で犯罪に巻き込まれる可能性もあるというご指摘の中，そのような生徒の動向をつぶさに観察し，未然防止に努め，迅速に対応できるよう，教育相談の実施や生活実態ア

ンケートの結果を有効活用するなど効果的な対応を継続していくとの説明があった。

- ・不登校に関しては、遅刻の回数に着目したグレーゾーン生徒（15日以上）への組織的対応を軸に、不登校部会で情報共有し、担任以外の教職員も関わる複数対応を心がけた。また、対話を基本とした生徒理解に努め、安心安全な学校風土を醸成し、不登校生徒の数を減らすよう問題解決に向けて積極的に取り組んでいきたいと話があった。
- ・ここ数年、玉幡中の生徒はあいさつをよくするようになっている。大変素晴らしいことなので、今後も継続して取り組んでほしいという要望がなされた。生徒にはあいさつを玉幡中学校の「誇り」として、定着が図れるよう取組を更に進めて行けるようにしていきたいと説明があった。
- ・生徒数減少等に伴い、部活動の運営の見直しに取り組み、部活動規定の見直し、部活動数の削減を実施した。今後更に持続可能な部活運営を行う上で、部活動数の削減を実施しなくてはならないとの説明がなされた。また、令和5年度より教職員の多忙化の観点からも部活動のあり方が変わっていくことが予想される中、地域（社会体育）や市教育委員会等とも連携して部活動の運営について検討を進めていくことが必要であると説明が付け加えられた。
- ・教職員の多忙化の問題もあるが、コロナ禍で改めて、学校開放日やPTA活動、各種行事等で地域の方や保護者が来校し、生徒の様子を見てもらう機会は重要であるとの意見が出された。なかなか難しい面もあるが、可能な限り、教職員も地域に出向き、地域で活躍する子どもを見取り、その姿を認めることで、子どもの自己肯定感を育むことにもつながる。よって、今後とも子どもたちの健全な育成を図っていくためにも、学校と地域と家庭が連携・協働しながら、取り組んでいくことを確認した。
- ・学力向上の指定を受け、取り組んできた「夕学」も3年目を迎えて習慣化が図られ、「学力向上」や「家庭学習の習慣化」につながっている。また、小中連携教育の指定を受け玉幡小学校、竜王西小学校同様に「夕学」の取組を実践し、中学生活にスムーズに入っていけるよう取り組んでいると報告がされた。
- ・歯の治療について、養護教諭がまとめた資料が歯科校医より提出された。今年度は、新型コロナウイルス感染症の流行により、9月に感染予防の観点から完全防備をした中で検診を実施した。その結果、年々「う歯なし者」の割合は高くなっているが、「う歯治療完了者」の割合が低くなっており、今年度の「う歯受診済み」の割合は29.4%であると報告があった。養護教諭を中心に家庭にも便りや三者懇談の折に、医療費が無料である中学校までに治療をするよう働きかけていくことを確認した。

Ⅲ 今後の課題として意識されたいこと

- ・コロナ禍で教育活動を止めないように工夫していく。
- ・OJTや校内研修を通し、若手教員の資質能力の向上を図っていくこと。
- ・アンケート結果に表れない、生徒への指導や対応について気を付けていくこと。
- ・家庭教育力の向上に向け、関係機関との連携を図っていくこと。
- ・教職員の多忙化解消に向けた取組（部活動削減を含め）を行っていくこと。
- ・養護教諭が中心となり、歯の治療に関する医療機関への受診をすすめていくこと。

※特記事項

- ・甲斐市教育委員会指定「甲斐市玉幡中学校区小中連携教育」推進事業への取組を通し、小中学校9カ年間を見通した学習や生徒指導のあり方について教職員の交流を含め大きな成果が得られた。

記載責任者（甲斐市立玉幡中学校 学校関係者評価委員）氏名：小林 幸雄 印

